資料４－３

18歳以降の調査を通じて目指す成果について



環境省
Ministry of the Environment

18歳以降の調査を通じて目指す成果

環境省 Ministry of the Environment

エコチル調査の目的

エコチル調査は、胎児期から小児期にかけての環境要因がその後の健康に 与える影響を明らかにするための調査として実施されている。特に、化学物質のばく露や生活環境が、胎児期から小児期にわたる子どもの健康にどのような影響を与えているのかについて明らかにし、リスク管理当局や事業者へ の情報提供を通じて、自主的取組への反映、化学物質規制の審査基準への反映、環境基準への反映等、適切なリスク管理体制の構築につなげることを目的として開始された。なお、先天異常など環境中の化学物質の影響が指摘されている発生率が極めて低い事象については、最低でも10万人の調査対象が必要であること、また、比較的発生率が高い事象についても、低濃度でも 影響を及ぼす化学物質の関与を十分に検出する目的から、10 万人規模のデ ータを集積することとなった。

参加者（子ども）が13歳に達して以降も追跡を継続し、上記に加えて、ライフコースアプローチという観点から、化学物質のばく露や生活環境と思春期以降に発症する疾病等との関連を確認することを目的とする。

子どもの健康と環境に関する全国調査 （エコチル調査） 基本計画 （令和5年3月30日改定） ４． 調査の目的

本日ご意見いただきたい事項

エコチル調査基本計画の「調査の目的」として適正か、過不足がないか。

18歳以降の調査を通じて目指す成果

環境省
Ministry of the Environment

１．研究として目指す成果

①化学物質のばく露や生活環境と疾病等との関連に係る科学的知見の構築

（ばく露の例）
- 中心仮説の検証に役立つ物質
- 社会的関心又は政策的必要性が高い、又は今後高まる化学物質

＋

（健康影響の例）
- 免疫・炎症関連慢性疾患
- 生殖機能・内分泌・代謝疾患
- 精神・神経疾患

環境省
Ministry of the Environment

２．政策として目指す成果

①政策・ガイドライン等及び化学物質のリスク評価における活用

エコチル調査の成果が、政策やガイドライン等に反映される。また、化学物質のリスク評価において科学的根拠として活用される。

②国民への成果還元

エコチル調査の中心仮説に係る論文等から得られた重要な科学的知見について、研究成果として公表するだけでなく、成果に関わる対象集団のライフステージを支える医療・福祉関係者や、関連する化学物質の生産・使用に関わる事業者・業界団体等に対し、それぞれの関心や課題に応じた分かりやすい情報提供をさらに推進する

関係者間のリスクコミュニケーションの推進や適切なリスク回避・低減行動、より安全な代替手段の検討等を促進し、18歳以降の若年層を取り巻く環境リスクに対する理解の向上及びリスク低減に貢献する

③国際貢献

化学物質に関するグローバル枠組み（GFC）、化学物質、廃棄物及び汚染に関する政府間科学・政策パネル（ISP-CWP）や化学物質関係国際機関の取組に貢献する

④医療、福祉、教育、産業界等における成果の社会的活用に貢献する

本日ご意見いただきたい事項

エコチル調査を18歳以降も継続する意義は何か。客観的な価値、必要性は何か。

13歳以降への展開は、

〇胎児期の化学物質ばく露等と不妊症（男女とも）、精神神経疾患、生活習慣病等の思春期以降に年齢依存性に発症する疾病等との関連の確認ができる。

〇調査に参加している次の世代の子どもにどのような健康影響があるかという点等を確認することが可能となり、３世代にわたって長期の健康影響を調べることで、新しい世代への作用を明らかにすることができる。

〇日本人のデータを活用した重要なエビデンスが蓄積され、医学的な知見だけでなく、社会的な側面も含めた影響を知ることができ、様々な施策を検討する上でのプラットフォームとなり得る。

〇人種による疾病発症率の違いなど国際間の比較を行うことで国際貢献できる。

などの理由で必要とされた※。

これらのほかに、エコチル調査を18歳以降も継続する意義として追加するものがあるか。

※健康と環境に関する疫学調査検討会報告書（令和4年3月29日）